

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																							
専門学校 文化デザイナー学院	昭和51年4月1日	荒井 真次	〒310-0026 茨城県水戸市泉町1丁目3番22号 (電話) 029-303-1010																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																							
学校法人リリー文化学園	昭和51年1月22日	理事長 大久保博之	〒310-0021 茨城県水戸市南町2丁目3番14号 (電話) 029-224-4820																							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																						
文化・教養	産業デザイン専門課程	インテリア&家具クラフト学科	平成20年文部科学省 告示第12号	—																						
学科の目的	本学科は、建築・インテリア業界においてインテリアデザイナーとして就職並びに活躍できる人材の育成を目指し、設計からインテリアに関しての専門教育並びに、職種に必要な二級建築士やインテリアコーディネーターの資格取得を目的とする。																									
認定年月日	平成26年3月31日																									
修業年限	昼夜	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	2940時間	930時間	1920時間	90時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
90人	19人	0人	2人	18人	20人																					
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日	成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 総合評価 A,B,C,D(単位不可)部分評価を総合して4段階で評価する。																						
長期休み	■学年始:4月4日 ■夏季:7月25日～8月20日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月16日	卒業・進級条件		①出欠は学期内全科目の規定回数を全て満たしている。 ②課題は学期内の規定課題作品を全て提出し、その評価は60点以上である。 ③試験は学期末に行われる期末試験ですべての科目が60点以上である。																						
学修支援等	■クラス担任制: 無 ■個別相談・指導等の対応 専任教員が担当する授業のキャリアアドバイザーでは、毎回同じ者が担当する。 また、試験・課題・出欠・就職・学校生活についてはそれぞれの担当がいる。 長期欠席者への指導は電話確認、保護者への連絡、面談など。	課外活動		■課外活動の種類 水戸デザインプロジェクト、日本建築学会関東支部茨城支所 建築文化講演会 ■サークル活動: 無 ■国家資格・検定/その他・民間検定等 ※完成年度を越えていない学科の卒業生は令和元年度を記載																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等 ※完成年度を越えていない学科のため卒業生は令和元年度を記載 設計・デザイン・インテリア事務所/家具・インテリア販売/ハウジング/インテリアコーディネート・住宅設備メーカー/建設業・工務店/公務員 ■就職指導内容 業界人を囲む会・卒業生を囲む会・就職ガイダンス・企業見学・模擬面接 ■卒業生数 10人 ■就職希望者数 10人 ■就職者数 9人 ■就職率 90% ■卒業者に占める就職者の割合 90% ■その他 ※完成年度を越えていない学科のため卒業生は令和元年度を記載 (令和元年度卒業生に関する情報) (令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>建築士会建築師カラーコーディネーター検定3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>リビングスタylist3級</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>商業施設士資格試験</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>インテリアコーディネーター</td> <td>③</td> <td>10人</td> <td>0人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 茨城県建築士会賞、茨城県建築士事務所協会賞、日本建築家協会関東甲信越茨城地域会賞、茨城県建設業協会賞、インテリアコーディネーター協会賞、JRR日本水戸支社賞、水戸エクスル賞				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	建築士会建築師カラーコーディネーター検定3級	③	10人	9人	リビングスタylist3級	③	10人	7人	商業施設士資格試験	③	10人	10人	インテリアコーディネーター	③	10人	0人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																							
建築士会建築師カラーコーディネーター検定3級	③	10人	9人																							
リビングスタylist3級	③	10人	7人																							
商業施設士資格試験	③	10人	10人																							
インテリアコーディネーター	③	10人	0人																							
中途退学の現状	■中途退学者 1名 ■中退率 5.3% 令和2年4月1日時点において、在学者19名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者18名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 (例)学校生活への不適合・経済的問題・進路変更等 ①方向性や適性など進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 対象として、卒業生の段階によって教員による面談している。1段階指導として担当の面接、2段階指導として主任以上の職員による面接を実施している。また、課題の提出状況も把握し適切に指導出来るように、全ての規定課題(提出課題)については教員が出している。経済的問題に対しては細かい配慮、保護者との面談を行っている。奨学金や国の教育ローンなどを利用することによる資金面について相談、学習奨励金を返還している。また、許す増えつつある精神的な病気についても出来る限り配慮することとし、安心して学業出来るように細かい面接等を行っている。これらの細断にわたる「学生に対する配慮」が退学率を低くしており、「愛情をもって接する」という一人ひとりのスタッフのスピリッツにより支えられている。																									
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 「AO入学」・「学力だけでなく、本校の掲げる学生像(アドミッションポリシー)と照らし合わせ、好きなことを学び職業に活かしたいという熱意や職業理解などを作文や面接で総合的に判断する入学方法。プレスクール無料、入学選考料免除(通常15,000円が無料) 指定校推薦入学」・「デザインの分野に強い興味と熱意があり、入学を希望する者が本校の定める基準を満たし高等学校の推薦を受けた場合、高等学校との情報関係に基づき優先的に選考を行う指定校推薦による入学方法。入学選考料免除(通常15,000円が無料、入学金5万円免除(通常150,000円が100,000円)) 《2021年度募集に向けての支援制度》 「特待生推薦入学」・「高等学校での学習の取組において、地域社会と向かい、自ら課題を発見し解決に向けた行動を行い、自らの提案をプレゼンテーションしてきた成果を残された者に、地域から世界で活躍する事を目標とする人材の就学支援をすることを目的とする入学方法。 1年次:入学金は全額を支給(通常150,000円が無料) 1年次・2年次・3年次:授業料は半額を支給(通常650,000円が325,000円)、維持費は半額を支給(通常100,000円が50,000円)、実習費は半額支給(1年次/通常80,000円が40,000円、2・3年次/通常130,000円が65,000円) ※進級時「学年判定会議」で基準を満たしていないと判定された場合は、特待生特典を失い一般生となる。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																									
当該学科のホームページURL	www.bunka-gakuen.ac.jp																									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科省第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」とは、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者から除いたものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学部、歯学部、獣医学部、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

<p>②意見委員(坂委員)</p> <p>このコロナウイルスが蔓延した状況を誰も想像することができなかった。しかし、この状況となり想像する事、モノづくりに対して考える時間が増えた。学校に行けないうちや就職活動が満足にできない人も多くいると思うが、今までになかった仕事の考え方、働き方ができる。悲しむだけではなく、この状況を楽しんで欲しいと思う。</p> <p>自分も新しい仕事を始め、この状況に合わせた考え方で取り組み始めたことがある。それが、YouTubeである。今の状況を楽しむことができれば、この先どんな波が来ても楽しみながら乗り越えらえることができる。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:オンライン授業 2021年度も継続</p> <p>②コロナウイルスの蔓延により2020年度前期はこれまでとは全く違った学校運営となった。休校時にはオンライン授業を計画し前期授業カリキュラムを進行した。学校再開後も三密を回避する環境下での教育活動となった。社会環境もテレワークの推奨やオンライン会議システム等を利用した業務が急速に普及した。本校が目指す職業も例外なく大きな変化が生まれている。例えばWEBデザイナーのような在宅でできる職業に注目が集まり、高校生はもとより社会人の学び直しの需要が増える可能性が考えられる。他にもアパレル業界では、実店舗からECショップでの販路拡大によって写真やWEBを扱う技術や対面販売からオンラインでの接客技術が求められることが予想される。ご意見をいただいたように、そのような状況をいかに楽しみながら学べるかということは理解度や学習成果に大きく影響する。やらなければいけないことを学生自身の目標を達成するために学びたいと思えるような指導で学生のモチベーションを維持していきたい。そして、企業の求める人材像が見えにくい状況の中であるが、このような状況に合わせた就職指導も行ってきたい。</p>
<p>③意見委員(橋本委員)</p> <p>学生満足度アンケートを見ると1学年の結果は普通が多く、2-3学年になると満足に変わっていき、1学年は基本的なことを学んでいるので楽しさを見いだせない傾向があり、なんとなくで入学してしまつと、それが影響して退学してしまうケースも考えられる。それは、企業でも同じようなことが言えるので、学校での対策も大切だと考える。</p> <p>それに対応する一つの考えとして、学校のアピールが必要で、学ぶ内容の良さ、地域に根差していることを大々的にアピールして、学校の考えに合ったやる気のある学生を入学させることも大切だと考える。そのような環境の中、3年間学んで会社に入った時に即戦力として働ける人材育成に努めて欲しい。</p> <p>2年間の学校と3年間の文化デザイナー学院では違いがありアドバンテージがあると感じている。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:修了制作にかかわる授業 2021年度も継続</p> <p>③高校生の進路選択において専門分野への進学は本人のやりたい気持ちで強く影響する。やりたいこととの不一致が退学理由になるケースは少ない。しかし、将来の目標を明確に定め、入学から卒業まで一貫した意志を持って全員が過ごすわけではないとも言える。3年間の学びの中で、自己理解を図り、それぞれの学生に合う目標を定めることが大切である。そのため、キャリアデザインを通して自己分析や職業理解を図る講義を実施している。また、通常授業以外でも講演会に参加することや体験学習を実施することで意識付けを行っている。そうすることで在学中の退学防止と就職後の離職防止に努めていきたい。また、募集の時点で地域と連携した学習プログラムは大きなアピールに繋がる。高校生が理解しやすい表現で伝えることで、内容を理解し意欲的な生徒の入学につながる実績もあり、広報では本校の特徴として理解を深げていきたい。また、3年制のカリキュラムについても、業界から求められる人材像には、基礎的な技術の修得のみならず、企画力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力など多様化している。学生がやりたいことを仕事にするためには、3年間の課程がふさわしく、企業からの評価にもつながっていることを多々実感しておりさらに充実を図りたい。</p>
<p>④意見委員(西條委員)</p> <p>修了制作展を見て、地域の企業との取組み、そして具体的なテーマに沿った制作を行っており、それを仲間たちと取り組める環境が羨ましいと感じた。学生の頃にこのような制作に触れ、濃密な時間を過ごせることは良い事である。</p> <p>講師は、民間でプロとして働いている方々なので、社会の変化や流れの中で、必要とされるデザインなどを反映しながら教えて貰える。実際に現場で働いている講師から教えて貰えることは力になると感じる。</p> <p>Webの資格など、3年間だけでは限界はあるが、社会に出てからも学び続けることが大事である。社会に出てから知る事はとても多い。学び続けようという意識を育むことができる教育機関であって欲しい。</p> <p>卒業してから講師との関係性はどうなっているのか。困ったときに相談できる場所になっていると良い。悩んだときに相談できる環境になっている学校だとステキだと思う。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:実務経験者による授業 2021年度も継続</p> <p>④学校外部の関係者の学生調査の結果の中に、本校で過ごす3年間で本当の仲間と出会えたという学生の声がある。学校生活においては、クラス全体の雰囲気やモチベーションは学習の修得度に大きな影響をもたらすものと考えている。授業を担当する講師と各クラスの担当教務が情報共有を密に学生指導にあたり、講師からは教科書だけでは得られない実務で必要な力をしっかりと学んでほしい。卒業後に卒業生が講師と一緒に仕事ができることは大変喜ばしいことだと感じる。学生の教育成果の確認はもちろん、実際に仕事をすることで卒業生自身も在学中の学習の意味を再確認できさらに学ぼうとする意向向上に繋がると感じている。そのように卒業生との関係を構築させるうえで同窓会を定期的に開催している。前回は卒業生の作品展と展示販売を学校イベントに合わせて実施した。卒業生にとって、本校が講師との関係を再確認できたり、新たな人間関係を築く場であることを目指し、同窓会の内容を充実させることで卒業後も遊びに来やすい学校にしていく事を心掛けた。</p>
<p>⑤意見委員(橋本委員)</p> <p>私は百貨店に勤めており、顧客の声や現場に出て聞く声を一番大事にしている。なので、アンケートはヒントがあると考えている。</p> <p>例えば、改善して欲しい意見が多いと感じたのは、先生の入れ替わりがあるとの意見である。学生にとっては大きな心配にもつながる恐れがある。また講師からは、頑張って作っても否定されているばかりで疲れてくれない。実際に質問をすると怒られたなど、困っている意見を自にした。このような声に対して、どの様に講師対応をしていて学生達にどのように答えているのかも気になった。このような意見にも配慮して貰えると良い。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:学生アンケート 2021年度も継続</p> <p>⑤学生には半期に一度アンケートを実施し、意見をしっかりと確認している。また、個人面談も半期に一度全校生徒に対して実施しひとりひとりの声を聞く機会を設けている。必要に応じてヒアリングを行い声に耳を傾けるよう対応している。先生の入れ替わりがあるとの意見に対しては、近年教務スタッフの職務効率化と働き方改革に合わせた労務管理を実施し、長く働きやすい職場環境を構築している。また、時には学生からの意見として、講師が褒めてくれない、質問をすると怒られたなどの声があった場合には、担当講師に確認を行っている。講師の対応にも、学生の学習態度や修得度を踏まえ指導を行っていることもあり、個別に面談を設けるなどし、講師の指導目的を把握している。その際に、考え方の違いがある場合には、学校の教育方針を十分に理解したうえで対応している。学生に対して、オリエンテーションや各学科学年に分かれたホームルーム授業で伝えられているが、理解できたかの確認が不十分であるかもしれない。よって、講師との面談の機会を増やすことであったり、ホームルームで伝わりきれていないと感じた時は個人面談を通して確認することを心掛ける。</p>
<p>⑥意見委員(杉浦委員)</p> <p>コロナ禍以前からアパレル業界は厳しい状況が続いている。そのため、どうしてもマンパワーが求められ力量が問われる。採用をすすめるにしても、中途採用をするが応募数が少なく、よほどでなければ一時的に採用をして3ヵ月様子を見て本採用を決めている。そこに来た者たちを見ると、人的に不作為で何をやりたいか分からないで入ってきた者達が多く、その者たちの考えは、思っていたのと違った。想像していたことと違った。リアリティのある売り場で働きたかった。指導をして欲しかった。普段買い物で売り場を見ていたつもりだったが現実とは違ったなどの考えを持っている者が多かった。アパレル業界自体の魅力が下がっているとも感じ困っている。</p> <p>今年度はコロナの影響で不利な状況である。都内や海外に7、8ヵ月間行かない。置いてきぼりになっている感じを受ける。学生達にはたくさん物を見て貰いたいし経験体験をして欲しいが、見て歩けない状況であり世界がより狭くなってしまっている。色々な経験や衣食住の全てがファッションと繋がる。どうやって空気感を感じることができるか、意欲的な人が少ない中で、どの様な形で教えてあげることができるかが重要。そして、関心や情熱を持たせ就職する力を付けさせる事が大切である。</p> <p>自分が30歳になった時にどう思っているか。幼稚、稚拙な感性の若者が多い。若者には背伸びをして欲しい。あそこに行ってみたい、あれが欲しいなどの感性や欲望が無いと世界が狭くなる。雑誌やインターネットだけでは分からない。実際にお店をやっている人を見て自分でもやりたいという気持ちを持って貰いたい。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:修了制作にかかわる授業 2021年度も継続</p> <p>⑥本校の専門分野の中でも、アパレル業界はコロナの影響による業界の変革が顕著であると感じている。目標や希望を持って就職をしたが、思っていたことと違ったという理由で簡単に離職してしまうことは社会に出る直前の教育機関としては本当に残念に感じる。本校においてはそのようなミスマッチがないよう指導していきたい。しかしながら、この先の不透明な時代に対して意欲を持ってない、自分自身の長所や短所、趣味・趣向を理解していない学生も見受けられる。自分がなにをやりたいか、どうなりたいか、それらを学生に言葉で伝えることよりも、実際に体験することは効果的である。今年度の教育活動においても多くの制限がある中で、現状でやれることを試みた。例年学生達には東京に行き文化・芸術に触れる機会を設けているが、東京に行くことは難しい状況のため、茨城県内にある伝統工芸を実際に見ることや体験できる機会を設けた。また、企業と連携したプログラムを増やし、リメイク衣料の制作・販売や雑貨商品の製作・販売を増やすなどの対策を行った。アイデアや提案が実際に商品や具体化することでモチベーションが上がり、またデザインを考えることと実際の制作が伴うことで達成感ややりがいを感じることができたのではないと思う。</p>

<p>⑦意見委員(山本委員) ウェディング業界はコロナ禍に入り3月から式の延期が続いている。緊急事態宣言が発表され苦しい状況になっている。結婚式を生業にしているが、自分たちが出来ることは限られてしまう。今年度は、学校も分散授業やオンライン授業を行う中、講師と授業をどのように組み立てるかも大変だったと思う。そんな中、学校の取り組みで大きな壁に学生の作品を描いたものを見た。それを見たときに、学生達は自分の選んだ学科はあるが、学科の枠を超え実際に仕事をしているのかのように、他学科との取組みを行っているのも良いのかと思った。そのようなリアルを体験することによって、今感じられない実体験を行う事で、達成感ややりたいことを見つけたら、きつかけにもなるかも知れないと感じた。最後に、このような状況だからこそ学生の悩みを聞いてサポートして欲しいと願う。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名：学科を超えた連携にかかわる授業 2021年度も継続検討</p> <p>⑦分散登校やオンライン授業の実施にあたっては、授業計画の管理とこれまでにない授業の実施ということでも各講師のご理解をいただき、できる限りの対応がとれた。課題制作が中心の授業科目が多数あり、課題データの提出方法についてはクラウドの導入と重なったこともあり、学校全体としてもスムーズに移行できたと感じる。新しい技術や情報に目を向け、収集していくことの重要性を改めて感じた。また、マイナスな事だけでなくオンラインの使い方によっては基礎的な授業に限っては対面と同等以上の効果も見込めると感じた授業もあった。今後検討していきたい。また、新しい試みとして学科の垣根を超えた学習についても常に検討していることである。半期の授業の進行としては、基礎知識の修得、技術トレーニング、デザイン制作のようなプロセスになるため、同じ半期で異なる学科が連携して課題を進めるとスケジュールが一緒に進んでいるので同学年で共同作業を行うとどちらかが進行のズレが生じてしまう。年次を超えて実施することが可能であれば対応することもできるので、他学科との連携はこれからも考えていきたい点である。そうした活動は学習成果を多く得られると思っている。</p>
<p>⑧意見委員(小川委員) 建築業界もコロナの影響が直接的に無かったとは言えない。民間の建築設計を行う業者は、これらまで設備投資ができるのかを考慮し、計画していたものを見直し延期や縮小しているなどの話を聞いている。それに合わせるため、人員確保にも影響が出るのは自然の流れで、建築系の企業に就職活動をする場合は厳しい状況が予想される。そして、withコロナを考え動いている企業もある。それらの状況にも合わせて教育内容を考える必要もあるが、カリキュラム・内容については補っていると思える。技術的な部分の問題はないと思っている。しかし、技術が進歩するに当たり建築を深く勉強する事を追求する建築設計デザイン学科になると良いと思う。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名：実習に関わる授業 2021年度も継続</p> <p>⑧建築業界に限らずコロナの影響が良い方向にも悪い方向にも向くことがあり、先が見えない状況の中で学生達も不安や心配が多かったと思っている。そのような環境の中でも自信を持って社会へ出られる教育を行うことが、専門学校の社会的役割だと改めて認識した。建築設計デザイン学科においては、建築、インテリア、家具・雑貨・ガーデンと建築を深く学んでいる。空間を構成する要素からエクステリアまで知ることは建築の仕事にも関わってくる。そして、授業ではデザインして考え表現するだけに留まらず、それを実習という形で学習している。2020年度も雑貨デザインの授業ではコンクリートでプランターを作り、DIYの授業では教室をリノベーションしたり、家具デザインの授業では教室の机やイスを制作、ガーデンデザインの授業では木製のプランター制作と植栽を行った。空間を作る上での実習は学生達にとって大きな学習成果になったと考えられる。また、地域の課題を建築的な観点から解決する課題や企業での実習を通し実践力を磨くことができると考えている。建築設計デザイン学科に名称を改め、本校の内容がより直感的に伝わることを期待したい。</p>
<p>⑨意見委員(迫間委員) 授業の幅が広いので学生たちの就職の幅も広がると思う。様々なことを授業で経験できるカリキュラムになっているので、学生達も多方面に就職が可能だと感じた。私の業務もオンラインの打合せが増え、仕事がオンラインに偏っている一方でリアルでしかできない部分があると感じている。その部分はクライアントに向けた対応力である。授業の中でも、それが学べるようなシステムがあるとこの先の時代で活躍ができる。AIなども進んでいくが、リアルの対応力やそれを聞き出すヒアリング力が大事になってくる。それらの力を付けられる授業が必要だと感じている。チャートで出来る仕事とプロでしかできない仕事の二極化になっていくと思うので、それらを意識した教育プログラムが必要になると思う。最後に、カリキュラムは充実している。東京に行かなくても地元茨城で十分に学べる内容になっているので、それをアピールして貰いたいと思う。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名：修了制作に関わる授業 2021年度も継続</p> <p>⑨3年制のカリキュラムを活かししっかりと学生には学んでもらいたい。デザイン系の仕事はもちろん、インテリアや現場系の仕事まで学生の就職先が多岐に渡っている結果からも特徴が表れていると感じる。これからの就職を踏まえると、コロナ禍の状況やAIなどの技術進歩に対応した学習内容の構築が求められる。AIについては、その特性を理解しデザインの業務にいかに取り入れていくかが重要だと思ふ。AIと競合するのではなく、いかに使っていくかという点において、どのような授業を実施するか検討する必要がある。また、一方で、直接対面した際のヒアリング、プレゼンテーション力を疎かにしてはならない。評価いただいた通り、地方でも東京で学べない学習があり、地域と連携した課題である。地域に根差したデザイナーを目指す学生が多いためには本校の地域と連携した学習が強みとなる。その学習では、現地調査・ヒアリングを直接クライアントに行い、制作課程において中間プレゼンテーション、そして最終プレゼンテーションを実施する。すべてのプロセスにおいて直接クライアントと接することで対応力を磨くことができると考えている。3年制の学びの強みと実践的な学習プログラムは今後もしっかりとアピールしていきたい。</p>

2020年度 第2回教育課程編成委員会(2月6日・13日)の活用状況

教育課程編成委員会等の意見	活用状況
<p>①意見委員(倉田委員) (F2) 足湯の提案がよかった。水戸の観光という視点で考えた時に、単体の施設でありながら観光の流れやニーズに合った発想だと思ふ。課題自体も屋上を活かすという現実的なものでとても分かりやすく良いテーマだと思ふ。 (F1) 線路沿いという条件をつまぐ活かした独特なデザインが多く、発想の柔らかさを感じた。課題として具体的な良い題材だと思ふ。 (FB2) コロナの影響で難しくなっている分野ながらアイデアや工夫、何より若いエネルギーがそれを吹き飛ばしている印象を受ける。負けないようにサポートしている指導側の熱も感じる。 (FB1) 古着文化の知らない一面を見ることができたと感じている。リユースはこれからの大きな社会的テーマでもありこの取り組みを続けてほしいと思ふ。学生が楽しんでおりとてもよいと思ふ。 (PD3) それぞれに考え抜かれた企画で、デザインへの落とし込みがスムーズ。力のある実現性の高いものであると感じた。この完成度であれば実際に社会に出て試してみてもいいと思ふ。クライアントの感想も聞いてみたい。 (PD2) 完成度が高く様々な発想があり、取り組み全体としてもよいと思ふ。クライアントにも大いに喜んでもらえるのではないかと思ふ。 (PD1) 楽しんでデザインしていることが作品からも出てきている。実はそれが一番大切なポイントかもしれない。指導が見事だと感じた。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名：修了制作にかかわる授業 2021年度も継続</p> <p>①企業等と連携した課題に取り組む上では、実践的な学習という面から本校のカリキュラムにおいて特に重要なプログラムと考えている。その課題の設定は、近い将来に職業に就いた際に求められる力を養う目的を果たせるよう企業等と打ち合わせを行い良く刷り合わせをしながら進めている。学習の進め方においても、学生が一時的に作品制作を行うのではなく、レクチャーや取材、現地調査、企業等の関係者からのヒアリング、中間審査等を行いながら進める必要があり、企業等の協力を仰げるよう調整している。そのうえで、各学科全学年の習得度を踏まえ、学年の修了に相応しい課題を設定している。 そして、地域性や社会性、時代性を考慮し、企業・団体等が抱えている課題をリアルに体験し、デザインで解決する実践的な内容とするため毎年異なる企業・団体等と連携している。 また、作品やプレゼンテーションを通して講師の指導内容や熱意を感じていただけたことを大変うれしく感じる。2019年から新しい教育目標を掲げ、講師会を通して研修を行い、方針の理解を深めるとともに、教育目標に合わせた指導方法の検討と共有を図ってきた成果が表れていると感じる。今後は学生への教育効果を確認し、課題や成功事例を共有しながら、講師・教務のスキルアップを継続して行ってきたい。</p>

<p>②意見委員(橋本委員)</p> <p>(PD3) 毎年思うことだが、セールスプロモーションゼミは楽しい雰囲気を感じることが出来る。映像・アニメーションゼミは短い時間で伝えたいことを伝えられていたと思う。グラフィックデザイン実践ゼミは伝える力を感じることが難しかった。</p> <p>(PD2) お茶の魅力という難しい企画だったかと思う。ポスターとリーフレットは必須のようだが、その他の作品は個人差が大きく出ていた。</p> <p>(PD1) キャラクターの設定などよく考えて制作されている作品が多かった。1年生でも質の高い作品があった。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:修了制作にかかわる授業 2021年度も継続</p> <p>②プレゼンテーションについては、学生や学年によるバラつきはあるが委員の意見では頻出の項目となっている。デザイン業においては必須のスキルであるため、学習の中で各学生のプレゼンテーション力をしっかりと磨いていくことは常に考えていかなくてはならない。得意・不得意が表れやすいものだが、一定の質を確保したい。そのためには、各学年での到達目標を定め、達成度の評価を行っている。到達目標としては、1年次は実務におけるプレゼンテーションの流れを理解し、デザイン制作におけるプロセスを踏まえ言葉で表現できるようになること、2年次は考えたことを相手にわかりやすく、納得を得られる論理的な説明ができるようになること、3年次はより実務を意識し、課題を発見し解決へ導く提案によって顧客がデザインの価値を見出せることである。また、一貫していることとして、相手の心を動かすための、デザイン制作にかけた思いや熱意を伝える姿勢を持つことである。達成度の評価の機会として、修了制作課題においては、全学生が中間プレゼンテーション、選抜プレゼンテーションを行い、連携企業、講師や教務が作品評価とともにプレゼンテーションの内容についてもひとりひとり指導を行っている。プレゼンテーションは良い作品を制作しようとする意欲にもつながることから、ひとりひとりに合わせた適切な指導を行い、個人差をなくしていきたい。</p>
<p>③意見委員(西條委員)</p> <p>(F2) プレゼンパネルはどこから見ればいいのか、流れが分かりにくい作品が多かったように感じた。3DCADでテクスチャの表現などをしている、よりリアルな表現の模型は見えて楽しめた。</p> <p>(PD3) 1年生と比べると自ら「ご説明しましょうか」と声をかけるなど度胸や積極性が高く、成長している様子が見えた。またアウトドアとワインの提案は全体的にクオリティが高かった。水戸の店と連携したワインギフトの提案は、地域らしさの表現に苦戦しながらも発想が良いと思った。自然と風土だけでなく、店や人が地域らしさであるということに気づくことは大事なことである。</p> <p>(PD2) どんなマーケットにどんなPRを仕掛けていくかという点で、銭湯のサーバーに焦点を当てて提案していた作品は、提案とデザインが素朴ながらよく観察し検討していると感じた。ターゲット設定が各学生個性的だった。デザインを仕事にして、クライアントに提案していく上でも、ターゲットをいかに見極め、深めていけるかでその後のデザインやコミュニケーションが変わってくる。授業や課題で人と社会のインサイトを深める思考も更に養ってほしい。</p> <p>(PD3) ファイルの中にキャラクターデザインやロゴなどの制作過程、スケッチなどがあっても良いのではないかと感じた。表現のスタディ、検証のプロセスも量として必要なのでそれを発表して見せることでその大事さが認識できるのではないかと思う。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:修了制作にかかわる授業 2021年度も継続</p> <p>③地域に根差したデザイナーを目指す上では、地域の持つ魅力や資源を理解し、デザインに結びつけることが重要である。連携課題においてはレクチャーの機会を必ず設け、理解を深めているが、地域に住む方、地域で活躍されている方など地域の人々とのコミュニケーションを図ることによって深い理解につながる。人と人のコミュニケーションを通して学生が自分事として課題に向き合い、自発的にリサーチや取材を行うこともある。それが積み重なることで新しい発見につながり、利用価値の高い提案につながると考えている。2021年度の連携課題においては、街のプレイヤーとのコミュニケーションを通して、単なる地域の観光資源や物産を知るだけでなく地域の魅力をより深く理解できる試みを行う予定である。そして、表面的でなく真に求められている潜在的なニーズを探ることにつなげていきたい。そのような取り組みも含めた制作課程を資料の見せ方の部分で工夫ができる可能性があるため講師と相談して指導に活かしていきたい。</p>
<p>④意見委員(橋本委員)</p> <p>(F2) 調光フィルムを利用したプラネタリウムは利用の幅がある。プラネタリウムに限らず可能性が広がりそう。足湯の作品は何気なさで良く、水戸に在る事を感じさせる作品。</p> <p>(F1) それぞれの住人をイメージしたデザインになっていると思うが、もっと思い切った部屋が展望列車そのものをイメージしているような、通過する列車側からも見えることを想定した切り口があっても良かったと思う。</p> <p>(FC3) 架空の学校「水戸第四高等学校」を作ったのは素晴らしい。高校生をターゲットにしていると言うが、高校生に限らず20代位まではターゲットにできると思う。</p> <p>(FB2) リユースをプライダルで提案している作品はマテリアルとしての意識は分かるが、リユースとプライダルの関連性や伝えたいことをパネルに記載してあると更に良かった。</p> <p>(PD3) 「刻-KOKU」という作品は、「その一滴一滴が思い出を刻む」というキャッチコピーもセンスがあり場面をイメージできる。また「刻む」だけでなく旨味の「コク」に連動する。一滴一滴を表現するにはもっとふくよかなボディが良かったかもしれない。ボトルが少し細く感じた。</p> <p>(全体に対して) 全体的に感じたこととして、学生の作品なので「意外性」や「新しさ」を期待した。結果的にはファッションや建築にはそれを見いだす場面は少なく、広告のお茶やワインにはそれを発見できた。物理的な制約なのか、機能性が阻害の原因なのかかもしれないが、是非とも「驚き」を表現してほしい。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:修了制作にかかわる授業 2021年度も継続</p> <p>④斬新なアイデアや発想は、コンセプトメイクの時点ではさまざまな方向性から考えられているが、作品発表の段階ではまとまってしまうことがある。発想自体は面白くても、それを裏付ける課題背景やグラフィック・造形などの表現力が足りない場合もあり、連携課題以外の各授業で培った内容を応用できると良い。デザイン史、色彩学などのリテラシー、グラフィック、模型、縫製などの表現力、そして良い作品やデザインに多く触れて発想の引き出しを増やしておくことなど、斬新なアイデアを作品として生み出すには複合的な要素が必要になる。コロナ禍においては、学内だけの授業が多くなっているが、見学や講演の機会をできるだけ取り入れて良いものに触れる体験学習を行えるようにしていきたい。2020年度は茨城デザイン振興協議会・茨城県デザインセンター共催の講演会&パネルディスカッションの聴講、茨城の伝統工芸である結城紬の見学などを行っている。また、良い作品には、課題に深く取り組み自らの考えを形にして伝えようとする主体性が求められる。知識や技術だけでなく、学生の興味や意欲を刺激し、自分事としてモチベーションを高めていけるような環境づくりに講師・教務が運動して取り組みたい。</p>
<p>⑤意見委員(迫間委員)</p> <p>(F1) 住宅には不向きとされる立地条件を価値に変換させるコンセプトの立て方が興味深い。敷地内の線路を活用したガーデンデザインまで表現しているものが少なかったのは残念だった。</p> <p>(FC3) それぞれにショップコンセプトが確立されていて、WEBサイト(PCのみならずスマホ版も含め)まで一貫したデザインになっていることが素晴らしい。</p> <p>(FB1) 現在のトレンドであるSDGsの問題をきちんと調べた上でファッションのこれからの姿に繋げているコーディネートのPRになっていたと思う。</p> <p>(PD3) パッケージ、広告などの紙媒体や映像、イベントと多岐にわたるプロモーションスキルが展示されていて社会人として即戦力になることが期待される内容だった。</p> <p>(PD2) 実際の商品、それを販売する方法(SNSを利用した広告からの通販サイト)まで、すぐ活用できそうなプロモーション企画だったと思う。</p>	<p>◆全学科全学年 授業名:修了制作にかかわる授業 2021年度も継続</p> <p>⑤連携課題の実施にあたっては、実際の職業において求められる課題に取り組みより実践的な学習とすることが目的であり、学生作品に評価をいただけたことで学習成果が得られていると感じる。</p> <p>(F1) 1年生は各学科ともに制作物はある程度の枠を設けている。それは、デザインを考えることをしっかり行うためだ。柔軟な発想を形にすること、プレゼンテーションすることをしっかり身に付けている。2年次以降は表現力もついてくることから、インテリア、エクステリアを含めた作品を目指したい。</p> <p>(FC3)、(FB1) 各学年の取り組みは現在のトレンドでもあるサステナブルな観点も含んだ提案となっている。流行の移り変わりが著しい分野でもあるため、時代に合わせた対応をとれるようになっていきたい。</p> <p>(PD3)、(PD2) プロモーションとしてトータルな提案ができた点と評価いただけた点は、今回の連携課題の学修効果として評価できる。近年では過去の成果が様々な企業・団体等へのアピールとなり、連携をスムーズに調整することにもつながっている。毎年異なる課題に取り組むことから、各年度で対応が必要な問題はあっても、これまでの経験を活かして、2021年度もより良い学習プログラムを作ることにしていきたい。</p>

	<p>◆全学科全学年 授業名：修了制作に関わる授業 2021年度も継続</p>
<p>⑥意見委員(小川委員) (F2) 模型の作りこみなどは1年生とは違い細やかであり発想も豊かだった。ただ説明になると、全員とは言わないが、うまく説明できなかったり伝えきれなかったりする部分がある。プレゼンテーション能力がもう少しあると良かった。 (F1) 1年生のうちはまだ荒削りな感じを受ける。それぞれのテーマに沿って考えられてはいるが、まだ一つの側面でしか考えられていない印象である。 (FC3) 個性あるコーディネートではあるが、発信力として考えると、専門外である人には伝わりにくいと思った。 (FB2) ディスプレイは感性的なものもあるので分かりにくい、服などの制作は細やかなものがあり学生が制作していることに感心した。 (FB1) リユースの枠を超えてリメイクという考えで衣服の消費寿命を延ばす取り組みは大事だと思う。学生が伸び伸びと制作していることが目に映るようだった。 (PD3) 具体的な題材で水戸ワインをどう発信していくか、それぞれが考えられている。デザインもきめが細かいと思った。 (PD2) プレゼン内容が1年生とは違い、技術力も上がっている。20才代のお茶を飲まない世代とお酒に興味があることを組み合わせるコンセプトは面白い。 全体を通して、作品制作の完成度は1～3年生で違うが、説明する時は自分の作ったものに自信を持ってハキハキと話してほしいと思う。</p>	<p>⑥プレゼンテーションで、自分の考えを伝える力は実務においても求められる。全てのクライアントが専門分野に精通していると限らないケースもあるため、わかり易い表現で伝えることが必要である。連携団体への最終プレゼンテーションには、担当者以外にも関係部署などの関係者が数多く出席されるため、事前の指導ではわかり易く伝えられているかという点も考慮したい。また、単なる説明ではなく、自信を持って話し、心を動かすプレゼンテーションを目指したい。体験入学会の在校生スタッフにはリクルート講師による勉強会の中でプレゼンテーションについても指導を受けている。全員ではないがクラスを代表する学生に指導を行っており、全体に良い影響をもたらすことを期待して今回の試みをコントロールしている。また、指導する教務も勉強会を通して、指導のポイントを理解する機会となった。作品自体からは学生が熱心に取り組んだ成果をご評価いただけた。2021年度も継続していきたい。</p>
	<p>◆全学科全学年 授業名：修了制作に関わる授業 2021年度も継続</p>
<p>⑦意見委員(黒木委員代理) (F2) 水戸駅の屋上という電車のイメージがある場所で、そのイメージに左右されない作品も多く、自分の考えをしっかりと持っていて良い。 (F1) 難しい立地にもかかわらず、一人ひとりがしっかりとコンセプトと作品にまどめていたと思う。 (PD3) 具体的な題材で水戸ワインをどう発信していくか、それぞれが考えられている。デザインもきめが細かいと思った。 (PD2) 1年生より格段に力が付いていて驚いた。フリーペーパーの制作は社会に出てから必ず力になると思う。</p>	<p>⑦本校ではデザインコンセプトに係わる授業を3年間通して行っている。デザイン制作を行う上でのコンセプトの重要性の理解とコンセプトメイクの方法は1年次より学んでいる。1年次は基礎的な技術を習得するとともに、コンセプトを確立するための、調査や分析から発想を生む手法を身に付けている。コンセプトの基本的理解をもとに、2年次ではイメージを具体的に伝える表現力を兼ね備え、マーケットやターゲットをより理解した上で要望に応える応用力を身に付ける。最終学年である3年次には、企業の抱える現実的課題を解決することを想定し、実践的なデザインを提案するためのコンセプトを考えている。3年間を通して身に付けることは、見た目だけが綺麗な表現ができるだけでなく、常に自分の考えを持ってデザインすることだと考える。</p>

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 本校は教育方針として、「職業実践主義」「プロセス・表現主義」「デザインマインド教育」の三つを掲げている。特にデザインプロセスの実践的学習として「情報収集」→「分析」→「企画」→「デザイン制作」→「プレゼンテーション」までの流れを体験的に学習することは、上記の教育方針を総合的に理解することができると思う。そのために、地域においてデザインを必要とする企業・団体・自治体と連携して学生に「現実的テーマ」を与え、担当講師の指導の下、一連のデザインプロセスについて質の高いデザイン力を習得することを目的として実習・演習を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

インテリア&家具クラフト学科 1年		企業・団体等 連携課題 実施報告書	
		2020年度 修了制作	
課題名	線路沿いに立つ専用住宅の計画		
レクチャー・視察日	2020年8月20日(木) 14:00~16:30 水戸駅ビルエクセル6階(エクセルホール)		
レクチャー対応	連携団体: JR東日本水戸支社 営業部 事業課 事業企画グループ 地域活性化プロジェクト 村山 尚洋 様 水戸ステーション開発株式会社 取締役営業部長 苔米地 敦 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 主任 渡邊 千晶 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 寺澤 恵里香 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業推進グループ 佐久間 涼子 様		
レクチャー・視察参加者	講師: 藤田 直樹 先生、江ヶ崎 雅代 先生、杉浦 良幸 先生、飯村 信子先生、矢口 博幸 先生 教務: 荒井校長、川上部長、曾根		
中間審査会実施日	2020年11月19日(木) 13:30~15:30 本校6F プレゼンテーションルーム		
中間審査会参加者	連携団体: JR東日本水戸支社 営業部 事業課 事業企画グループ グループリーダー 田中様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 事業企画グループ 地域活性化プロジェクト村山 尚洋様 講師: 藤田 直樹 先生、雨川 充宏 先生、小野 剛 先生 教務: 荒井校長、川上部長、曾根		
中間審査会発表学生	インテリア&家具クラフト学科 1年 8名		
プレゼンテーション実施日	2021年1月15日(金) 13:00~15:00 本校6F プレゼンテーションルーム		
プレゼンテーション参加者	講師: 藤田 直樹 先生、雨川 充宏 先生、小野 剛 先生 教務: 荒井部長、川上部長、曾根		
プレゼンテーション発表学生	インテリア&家具クラフト学科 1年 8名 (8名発表した中から最終プレゼンテーション発表学生4名の選抜)		
審査会実施日	2021年2月13日(土) 13:30~16:00 本校2F L201教室		
審査会参加者	審査協力団体: 茨城県における建築・建設5団体の代表者 茨城県建築士会代表 常務理事 高槻 一雄 様 茨城県建築士事務所協会代表 常務理事 小川 憲一 様 日本建築家協会 関東甲信越支部 茨城地域会代表 会長 根本 洋一郎 様 茨城県建設業協会代表 浅川 清司 様 茨城インテリアコーディネーター協会 会長 迫間 美香 様 本校講師: インテリア&家具クラフト学科担当 12名参加 学校関係者評価委員: 関根工務店 関根 貴雄 様、根本建築設計事務所 阿久津 裕司 様、水戸ステーション開発株式会社 丸山 久 様 茨城インテリアコーディネーター協会 迫間 美香 様、有限会社メイクス 高松 啓士 様 卒業生代表: 黒沢 真波 様(ジュン・ホーム)、石川 美 様(ヤマト建築設計事務所) 計2名参加		
受賞者	茨城県建築士事務所協会賞: 羽根板 知佳 (はねさか とまか)「LINE is LIFE」 茨城県建設業協会賞: 齋藤 彩弥 (さいとう さや)「音-Sound-」 茨城インテリアコーディネーター協会賞: 齋藤 友輝 (さいとうともあき)「Collection House」 1年次修了制作部門 最優秀作品賞: 杉山 凜(すぎやま りん)「Train and Life」		
最終プレゼンテーション実施日	2021年2月25日(木) 14:00~16:00 本校6F プレゼンテーションルーム		
最終プレゼンテーション参加者	連携団体: JR東日本水戸支社 営業部 事業課 課長 竹川 英介 様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 資産活用グループ 副課長 グループリーダー 落合 正貴 様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 資産活用グループ 石川 達也 様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 事業企画グループ 地域活性化プロジェクト 村山 尚洋 様 水戸ステーション開発株式会社 代表取締役社長 本多 隆之 様 水戸ステーション開発株式会社 総務部長 丸山 久 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業推進グループ 主任 蛭田 和明 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業推進グループ 主任 渡邊 千晶 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業推進グループ 寺澤 恵里香 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業推進グループ 佐久間 涼子 様 講師: 藤田 直樹 先生、小野 剛 先生、江ヶ崎 雅代 先生、杉浦 良幸 先生、飯村 信子 先生、矢口 博幸 先生 教務: 園部副学園長、荒井校長、川上部長、曾根		
最終プレゼンテーション発表学生	杉山 凜、千田 萌花、齋藤 友輝、羽根板 知佳 選抜 4名(8名中) JR東日本水戸支社賞: 羽根板 知佳 (はねさか とまか)		
作品展示期間・場所	修了制作展(2021年2月6日~14日)本校2F L201教室		
成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・インテリアや建築の基本である住宅の計画についてプログラム・コンセプト・ダイアグラム等をワークシートをもとに分析し、実践的にプロセスを学習することができた。 ・視察においては、団体担当者より水戸駅周辺の環境についてのレクチャーを受け、現状について詳しく知ることができた。また、中間審査会や選抜プレゼンテーションも快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただけた。 ・今年度は線路沿いの敷地に計画し、「水戸らしさ」「水戸に建てる意味」を踏まえ、駅や線路との関係性、景観などを重点におき考えることで、その土地にしか計画できない建物を考えることの重要性、難しさを知ることができた。 ・線路沿いの住宅で暮らす家族像を学生1人ひとりがそれぞれの鉄道ファンを設定することで、趣向やライフスタイルに合わせた独自性のある設計を行うことができた。 ・途中経過を発表する機会(中間審査会)を設け、現在までの考えを発表し、具体的な助言を頂く事で方向性の確認や不足している部分について補うことができた。 ・インテリアバースの表現力を前年度同様に向上する事ができた。 ・連携団体からの評価に「コンセプトが面白い」「テーマと建物がある」とのコメントを頂き、学生らしい提案と実践的な修了ができたと感じる。 	学修成果の評価 	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力(インテリアデザイン)の更なる向上をはかる必要がある。 ・模型の完成度やプレゼンテーション力については、得意・不得意が出ており、苦手な学生の能力向上をはかる必要がある。 ・敷地の使い方について、それぞれが経験を積み向上し、全体の底上げが必要がある。 ・動線などを含め住空間としてのプランニングをさらに深く考えることが必要である。 		
外部作品展	第7回茨城学生建築展 主催: 一般社団法人茨城県建築士事務所協会 会期: 令和3年2月18日(木)~令和3年8月31日(火) 作品公開: 茨城県建築士事務所協会HP内「第7回茨城学生建築展」コーナー		
外部作品展 出品者	齋藤 友輝、千田 萌花、羽根板 知佳 選抜 3名(8名中)		
教務対応担当	荒井校長・川上部長・曾根		

企業・団体等 連携課題 実施報告書

2020年度 修了制作

課題名	水戸エクスセル屋上に新たな施設の提案	
レクチャー・視察日	2020年8月20日(木) 14:00~16:30 水戸駅ビルエクスセル6階(エクスセルホール)	
レクチャー対応	連携団体:水戸ステーション開発株式会社 取締役営業部長 吉米地 敦 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 主任 渡邊 千晶 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 寺澤 恵里香 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 佐久間 涼子 様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 事業企画グループ 地域活性化プロジェクト 村山 尚洋 様	
レクチャー・視察参加者	講師:江ヶ崎 雅代 先生、杉浦 良幸 先生、飯村 信子先生、矢口 博幸 先生、藤田 直樹 先生 教務:荒井校長、川上部長、曾根 インテリア&家具クラフト学科 2年 11名 (インテリア&家具クラフト学科1年 8名も参加)	
中間審査会実施日	2020年11月6日(金) 13:30~15:30 本校6F プレゼンテーションルーム	
中間審査会参加者	連携団体:水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 主任 蛭田 和明 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 主任 渡邊 千晶 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 寺澤 恵里香 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 佐久間 涼子 様 講師:江ヶ崎 雅代 先生、杉浦 良幸 先生、飯村 信子 先生、矢口 博幸先生 教務:川上部長、曾根	
中間審査会発表学生	インテリア&家具クラフト学科 2年 11名	
プレゼンテーション実施日	2021年1月14日(水) 13:00~16:00 本校6F プレゼンテーションルーム	
プレゼンテーション参加者	講師:江ヶ崎 雅代 先生、矢口 博幸先生 教務:荒井校長、川上部長、曾根	
プレゼンテーション発表学生	インテリア&家具クラフト学科 2年 10名 (10名発表した中から代表プレゼンテーション発表学生4名の選抜)	
審査会実施日	2021年2月13日(土) 13:30~16:00 本校2F L201教室	
審査会参加者	審査協力団体:茨城県における建築・建設5団体の代表者 茨城県建築士会代表 常務理事 高槻 一雄 様 茨城県建築士事務所協会代表 常務理事 小川 憲一 様 日本建築家協会 関東甲信越支部 茨城地域会代表 会長 根本 洋一郎 様 茨城県建設業協会代表 浅川 清司 様 茨城インテリアコーディネーター協会 会長 迫間 美香 様 本校講師:インテリア&家具クラフト学科担当 12名参加 学校関係者評価委員:関根工務店 関根 貴雄 様、根本建築設計事務所 阿久津 裕司 様、水戸ステーション開発株式会社 丸山 久 様 茨城インテリアコーディネーター協会 迫間 美香 様、有限会社メイクス 高松 啓士 様 卒業生代表:黒沢 真波 様(ジュン・ホーム)、石川 葵 様(ヤマト建築設計事務所) 計2名参加 茨城県建築士会賞:大塚 千里 (おおつか ちさと)「magnetella」 日本建築家協会 関東甲信越支部茨城地域会賞:高岡 望愛(たかおか のあ)「arc」 2年次修了制作部門 最優秀作品賞:高岡 望愛(たかおか のあ)「arc」	
受賞者		
最終プレゼンテーション実施日	2021年2月25日(木) 14:00~16:00 本校6F プレゼンテーションルーム	
最終プレゼンテーション参加者	連携団体:水戸ステーション開発株式会社 代表取締役社長 本多 隆之 様 水戸ステーション開発株式会社 総務部長 丸山 久 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 主任 蛭田 和明 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 主任 渡邊 千晶 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 寺澤 恵里香 様 水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 佐久間 涼子 様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 課長 竹川 英介 様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 資産活用グループ 副課長 グループリーダー 落合 正貴 様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 資産活用グループ 石川 達也 様 JR東日本水戸支社 営業部 事業課 事業企画グループ 地域活性化プロジェクト 村山 尚洋 様 講師:藤田 直樹 先生、小野 剛 先生、江ヶ崎 雅代 先生、杉浦 良幸 先生、飯村 信子 先生、矢口 博幸 先生 教務:園部副学園長、荒井校長、川上部長、曾根	
最終プレゼンテーション発表学生	鈴木 彩衣利、鈴木 大雅、高岡 望愛、永井 富大 選抜 4名(8名中) 水戸エクスセル賞:鈴木 大雅 (すずき たいが)	
作品展示期間・場所	修了制作展(2021年2月6日~14日)本校2F L201教室	
成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・視察においては、団体担当者より水戸エクスセルについてのレクチャーを受け、現状について詳しく知ることができた。また、中間審査会や選抜者プレゼンテーションも快くご対応いただき、学内だけでは補いきれない内容もご指導いただけた。 ・店舗形式を含め学生が各々設定し、地域との関りや集客を意識した計画の必要性を学ぶことができた。 ・中間審査会では、団体担当者に向け現在までの考えを報告し、方向性の確認をすることができた。 ・連携団体からの評価に「実現可能性が高いと感じる」「アイデアがおもしろい」とのコメントを頂き、今回の課題設定が上手く学生の学習効果へと繋がる結果になった。 ・パネル制作においてA1パネル3枚での表現ではなく全体を1枚と考えた作品が多く見られ、プレゼンテーションボードの表現力の向上に繋がった。 	学修成果の評価
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・模型に関しては個人制作時間が多いため、完成度にバラつきが出てしまった。 ・敷地や建物の大きさをふまえ、模型製作時間を含めた完成までの課題制作のスケジュールをしっかりと立てる必要がある。 	
外部作品展	第7回茨城学生建築展 主催:一般社団法人茨城県建築士事務所協会 会期:令和3年2月18日(木)~令和3年6月31日(火) 作品公開:茨城県建築士事務所協会HP内 「第7回茨城学生建築展」コーナー	
外部作品展 出品者	井上 莉奈、鈴木 大雅、高岡 望愛 選抜 3名(10名中)	
教務対応担当	荒井校長・川上部長・曾根	

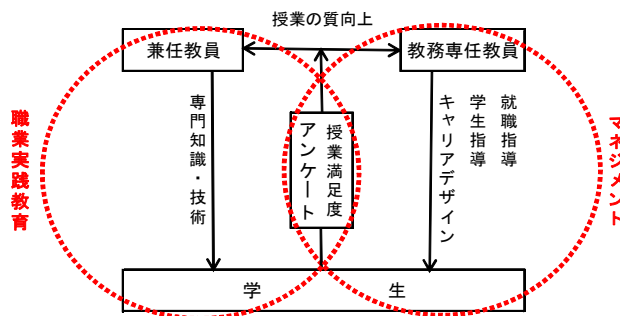
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インテリアデザイン実習	年間の総合進級課題。住空間のデザインを基本計画・設計製図、模型、パース、インテリア表現。	JR東日本水戸支社
インテリアCAD I	ベクターワークスによる作図手順の解説と作図演習。3DCADにて立体表現を行う前の図面知識を修得する。	
ショップデザイン実習	商業施設を中心とした修了制作課題（ショップデザイン提案）コンセプト設定～各種図面、インテリア表現、プレゼンテーション技法。	水戸ステーション開発株式会社
インテリアCAD II	ベクターワークスにより、実際にショップデザインを行う際の3Dパースを作成する。	
プレゼンテーション II	Adobeのイラストレーター・フォトショップ 使い、実際にショップデザインを表現する。3Dパースに付加価値をもたらす技術を身に付ける。	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

本校は、下記図のように、実務に関する知識、技術、技能に関しては「プロの兼任教員」が教授し、学生に対する様々な指導、マネジメントに関しては教務専任教員が担当している。



デザインは、教科書的にまとめられる領域は少なく、実務実習型の授業がほとんどである。従って、授業を受け持つには、例えば、広告デザインの分野では、デザイン構成やDTP技術はグラフィックデザイナーが教え、カラーコーディネイトはその有資格者が教え、Webデザインは、Webデザイナーが教えている。インテリアデザインの分野では、設計製図は一級建築士が教え、インテリアコーディネイトはインテリアコーディネーターの有資格者が教え、3DCAD（3次元パース）は建築士の中でも、その技術を習得した者が教える。エクステリアデザインに関しては、造園業にも精通したプロが教えるという具合である。また、本校のファッションコーディネイトは流通小売業の分野を学ぶもので、商品知識、接客、仕入れ、ディスプレイ、経理、はもとより、ネイルアート、フラワーコーディネイト、ラッピング、雑貨・ファッション小物制作等、それぞれの専門的授業に対して、その分野のプロが授業を受け持つことが必要になる。専任教員が教えられる領域を、はるかに超える授業内容である。この様な観点から、本校は、ほとんどの授業においてその分野で活躍するプロの兼任教員が授業を担当し、学生の職業実践的能力を高めている。

また、教務専任教員は、学生指導・就職指導能力を高めるため、企業人事担当者を訪問し人材ニーズを把握するとともに、企画立案及び打合せを通して実践的な指導力を高めている。さらに、キャリアデザインを通してマインド教育や職業人育成に努めている。プロの兼任教員と教務専任教員が相乗的に教育指導に当たることにより、知識・技術・人材教育をトータルに行う職業教育が可能になっている。

上記の指導体制を基に、「職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能についての研修等」は、本校が重要視しているデザインのプロセスを教育するために、企業や行政にご協力を頂き教員が一堂に集まる委員会等で意思の疎通を図りながら組織的及び計画的に取り組み実施している。それぞれの担当する科目の視点よりレクチャーを受けられる機会になっている。「授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等」は、企業・外部講師・ハローワークにご協力頂き、組織的及び計画的に受講させるため、年間研修計画のスケジュールに基づき実施している。また、諸規定等では、年間研修計画により「職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能についての研修等」並びに、「授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上のための研修等」が、教員に対し必ず受けなければならない研修となっている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

組織的に位置付けられた研修等の対象、内容、期間については、実務に関する研修等については、企業や行政等との連携を行う授業がメインとなる。内容は、インテリアデザインの分野においても、デザインのプロセスの部分が重要となる。昨年度の研修では先ず初めに、形を作る前に環境や風土を読み解くことが大切になるため現場より求められている内容を説明頂いた。次に、現実的な空間や機能が最終的な完成を見せる前に需要に沿った内容になっているのかを中間的なレクチャーを頂いた。最終的には、3Dパースや模型等を含む制作を行い相手に伝えるための表現方法を含めデザイン的な要素と機能的な要素を合わせたプレゼンテーションを実施し、その後にはアドバイスを頂いた。期間については、半年間にわたり実施した。

「地域デザインについての研修」

令和3年6月25日(木)14:00～16:30

講師: JR東日本水戸支社 営業部 事業課 事業企画グループ 地域活性化プロジェクト村山 尚洋
水戸ステーション開発株式会社 取締役営業部長 苦米地 敦
水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 主任 渡邊 千晶
水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 寺澤 恵里香

②指導力の修得・向上のための研修等

生徒に対する指導力等については、キャリアデザインに関連する授業が該当する。就職の指導を行うためには企業の事・マナー・履歴書等の描き方・ポートフォリオ(作品集)の制作など多岐にわたる。昨年度の研修では、6月にハローワークから今の求人情報や施設の利用方法などのレクチャー・10月にマナー講座・11月に業界を代表する方をお呼びして業界について講話を実施している。

「今般の求人状況と就職活動方法の研修」

・令和2年6月29日 10:40～12:10
講師: 水戸公共職業安定所 学生ジョブサポーター 青天目ゆかり/田端夏絵

「企業が求める人材像・企業の就職状況の研修」

・令和2年7月29日 9:00～11:30
講師: 石井邦明デザインスタジオ一級建築士事務所 石井邦明

文化デザイナー学院 講師会

・令和2年9月18日 10:50～11:50
講師: 株式会社リクルート北関東マーケティング 進学事業部営業 営業第2グループ
栃木支社 グループマネージャー 宮澤一幸
「文化デザインマインドの実行と推進の振り返りとさらなるアクションプランの磨き込みに向けて」

「実践的な就職活動方法」

・令和2年10月12日 10:00～11:30
講師: 学校法人リリー文化学園 秘書室 求人担当 長谷川 なおみ

日本建築学会関東支部茨城支所 建築文化講演会

・令和2年11月27日 17:00～19:00
講師: Uao株式会社 代表 伊藤麻理
「新しい図書館とランドスケープ」

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

学校が年度当初に教務会議にて年間研修計画を立案し、その後企業及び行政とデザインとの関連性について協議を重ね、研修等についての時期と内容を講師の授業計画に合わせ調整し決定する。

「地域デザインについての研修」

令和3年6月25日(木)14:00～16:30
講師: JR東日本水戸支社 営業部 事業課 事業企画グループ 地域活性化プロジェクト村山 尚洋
水戸ステーション開発株式会社 取締役営業部長 苫米地 敦
水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 主任 渡邊 千晶
水戸ステーション開発株式会社 営業部 営業促進グループ 寺澤 恵里香

②指導力の修得・向上のための研修等

学校で決められた年間研修計画に合わせて、担当がキャリアデザインとの関連性について各施設や企業と調整を行う。それぞれの研修等には企画書を作成し目的を明確にさせ実施している。学校ではその様な研修等を行う際には、必ず企画書の読み合わせを行い、関係するすべての職員が内容を把握している。

「今般の求人状況と就職活動方法の研修」

・令和2年6月29日 10:40～12:10
講師: 水戸公共職業安定所 学生ジョブサポーター 青天目ゆかり/田端夏絵

「企業が求める人材像・企業の就職状況の研修」

・令和2年7月29日 9:00～11:30
講師: 石井邦明デザインスタジオ一級建築士事務所 石井邦明

文化デザイナー学院 講師会

・令和2年9月18日 10:50～11:50
講師: 株式会社リクルート北関東マーケティング 進学事業部営業 営業第2グループ
栃木支社 グループマネージャー 宮澤一幸
「文化デザインマインドの実行と推進の振り返りとさらなるアクションプランの磨き込みに向けて」

「実践的な就職活動方法」

・令和2年10月12日 10:00～11:30
講師: 学校法人リリー文化学園 秘書室 求人担当 長谷川 なおみ

日本建築学会関東支部茨城支所 建築文化講演会

・令和2年11月27日 17:00～19:00
講師: Uao株式会社 代表 伊藤麻理
「新しい図書館とランドスケープ」

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針
本校は、「専門学校における学校評価ガイドライン（平成25年度文部科学省策定）」を踏まえ、学校教育活動や学校運営の状況について企業や業界の役員又は職員並びに卒業生の方に参画頂き、自己評価の結果を評価することを基本として、学校関係者評価の実施及び公表を行い、教育活動や学校運営の改善に取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	I 教育理念 II 教育目標 III 教育方針 IV 年度目標
(2)学校運営	I 学校運営の方針 II 授業計画 III 学校組織のありかた IV 意志決定のプロセス V 業務の効率化
(3)教育活動	I 学科編成における全学科を通しての共通な特徴 II 各学科の概要 III カリキュラム IV 単位認定・成績評価の考え方 V 資格取得・国家資格に向けた授業 VI 業界との協力体制 VII 企業・団体等連携授業 VIII 業界からの授業成果に関する協力 IX 修了制作展 作品の展示 X 実践的な職業教育（インターンシップ）
(4)学修成果	I 就職指導の全体方針 II 就職目標設定と28年度報告 III 就職に対する本校の特徴 IV 就職指導体制
(5)学生支援	I 学生支援体制
(6)教育環境	I 施設・設備状況 II 防災・災害に対する対応 III 保険の加入
(7)学生の受入れ募集	I 募集の動き II 広報媒体 III 募集体制 IV 学費
(8)財務	I 財務
(9)法令等の遵守	I 個人情報の保護 II 学校自己点検・自己評価 III 学生作品と著作権の問題
(10)社会貢献・地域貢献	I 企業・団体等連携の成果 II 企業・団体等連携の一覧
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

2020年度 学校関係者評価結果の活用状況	
学校関係者評価結果	活用状況
◆意見項目 評価基準1 教育理念・目的	◆随時対応 対象:全学科全学年 授業:
① 評価表より委員意見(近藤委員) これまで以上に企業等に求められる人材の育成を図ってほしい。	①②③ 今後各業界ではコロナウイルス感染防止対策を前提とした生活に合わせて、顧客からのニーズが変化することが予想される。広告デザインの業界では、紙媒体からWEB、動画制作への移行がさらに加速し、求められる技術が変化すると考えられる。ファッションビジネス業界においては、実店舗の運営からWEBショップへの移行に伴い、オンラインでの接客やチャット能力など販路の変化が考えられる。建築・インテリア業界においては、3密を防ぐ空間設計が住宅・店舗・大型施設では必須となることが予想される。そして、社会の変化に伴い、デザイナーに求められる資質が変わることに対応することはもちろん、予測が難しい未来に対して、新しい概念を生み出すために主体的に考え行動できる人間性を育むことが求められると考えている。これからの時代を見据えたカリキュラムの編成を考えるために業界の情報を収集するとともに、入学希望者・保護者へ周知することが必要である。
② 評価表より委員意見(迫間委員) 項目3～5について、コロナ禍において社会経済のニーズが変動していく時期だと思うので、将来的な構想を立てづらい状況だろうが、学生保護者に向けて発信して欲しい。	
③ 評価表より委員意見(関根委員) 業界のニーズを的確にとらえることが重要になってくると思う。	
◆意見項目 評価基準2 学校運営	◆引き続き対応 対象:学校運営・全学科全学年 授業:
④ 評価表より委員意見(近藤委員) 各方面からの意見等を組み入れるなど意思決定のプロセスが図られている。	④ 学校関係者評価委員、教育課程編成委員からの評価は、客観的な意見をいただくことができ非常に意義がある。学校運営・教育内容を振り返り改善していくことが、今後も地域に求められる人材育成を行う教育機関としての価値を生むことに繋がると考える。
⑤ 評価表より委員意見(住谷委員) 項目3、4は評価基準が明確ではないので評価できない。	⑤ 3の規則については文化デザイナー学院 職制にて運営組織が確認できる。意思決定機能については、毎日行われる終礼や半期に一度の判定会議が教務会議に該当し、学校行事や募集活動、就職斡旋等の学校運営に関わる事項を協議し意思決定を図っている。講師会議も半期に一度実施しており、学校の方針を協議し意思決定機能を図っている。また、月間で実施するリーダーミーティング、週間で実施するキャリアミーティングで学校全体に関わる事項や各学科に関わる協議と意思決定が行われている。4の規程（人事、給与）については、就業規則にて職員の就業に関する事項がまとめられている。それぞれについて委員会資料にて確認をお願いしていたが、評価基準の資料を明確にする事と不明な状態で進行しないよう用に努める。
⑥ 評価表より委員意見(高松委員) 情報公開が適切にできている。	⑥ 教育活動の公開は重要だと考える。入学時に新入生に実施するアンケート結果においても、学校案内の情報が入学の動機になることは間違いないが、約30%の学生がホームページが本校を知るきっかけになっていると回答している現状からも、ブログやSNSを利用した教育活動の公開を行い、インターネット上の情報公開に力を入れていきたい。
⑦ 評価表より委員意見(関根委員) コロナ禍での対応は本当に難しいとは思いますが少しでも良い方法を考えてほしい。	⑦ 時代の変化や学生の変化を捉え、対応をとっていくことは大切である。情報収集に努め、学生募集、教育活動、その他の学校運営に反映することはもちろん、スピード感も重要である。休校期間中はオンライン授業や分散登校の方法で授業を実施した。また、通常授業再開後は、①窓の開放②各階にアルコール消毒設置③講師のマスク着用の対応をとった。

<p>◆意見項目 評価基準3 教育活動</p>	<p>◆即対応 対象:学校運営・講師 授業:</p>
<p>⑧評価表より委員意見(近藤委員) 実践はされているが、職業教育の視点に立ったカリキュラムの拡充強化をすべきだと思う。</p> <p>⑨評価表より委員意見(住谷委員) 項目4の教育方法の工夫、開発で他校と比べて特質的なことがあるか。</p> <p>⑩評価表より委員意見(迫間委員) 職業教育としてのカリキュラムと資格試験対策としてのカリキュラムを3年で修了するのは時間的に厳しいことが想像できる。ベースは職業教育、オプションで資格試験対策など、どちらにベクトルを向けていくのか、学生にも明確に示す必要があるかと思う。それにより確保する教員の内容も変わってくる。コロナの影響で今後再度オンライン授業が採用された場合は、各学生の理解度のバラつきが心配されるので、フォローが必要かと思う。</p>	<p>⑧専門学校に求められる職業教育においては、常に目指す業界のニーズに応える人材育成を実現するためにカリキュラムを編成しなければならない。コロナ禍においては、目指す職業に求められる技術や知識も大きく変化することが予想される。業界の動向をいち早く掴み、カリキュラムとして体系立てる必要がある。</p> <p>⑨特質的な教育方法としては、修了制作課題をはじめとする実践的な学習プログラムがある。デザイナーは常に顧客の立場に立った企画立案とデザイン提案が求められる職業であることから、教育段階から具体的な業務内容に近い環境で学ぶことが必要である。これまで地域の企業や自治体が抱える課題を学生の立場からデザイン提案をする事例を数多く行ってきた実績からも年間を通して様々な案件の相談を頂くことが増えている。これらの取り組みは学修成果に繋がることはもちろん、本校の教育の特徴となり入学希望者が他校と比較する際にも強みとなると考える。</p> <p>⑩本校の教育内容は職業に必要な実践的学習を中心に置いている。インテリア&家具クラフト学科の移行に伴い全学科を3年間教育とし、デザインを基礎から実践まで学べる教育機関としての明確な方向性も打ち出していくことができると考える。資格取得に関し、学習内容の理解度の確認とさらなる意欲向上へ結びつけるために各学年で目標を定め取得を目指している。二級建築士の受験対策は受験資格を得られる程度で3年間を通して必要な事を学び、受験テクニックが必要となる受験対策の授業はバクトルを職業教育としているため行っていない。むしろ、実践的な内容が含まれるインテリアコーディネーターの資格については、職業教育を学んでいる中で取得を目指す資格なので、カリキュラムに落とし込み、学生達にも説明を行い理解している。それらの方針に合わせ、非常勤講師の確保を行っている。また、講師に求められる資質も業界の動向や授業の方法により変わってくるため、引き続き業界との繋がりを大切にし、今後の方針に合わせた教員確保ができる体制を作っていく必要がある。</p>
<p>◆意見項目 評価基準4 修学成果</p> <p>⑪評価表より委員意見(近藤委員) 将来的な設計も含め、起業に係る指導についても拡充してもよいのではないか。</p> <p>⑫評価表より委員意見(迫間委員) 就職するための社会人としての基本スキル、モラルを身につけるのは必要最低限のことかと思われ、そこから指導しなければならないのは時間的に難しそうに思う。個別指導が必要な学生の指導は外注するなどの対応も検討してはどうか。</p>	<p>◆引き続き対応 対象:学校運営・全学科全学年 授業:就職活動に関わる授業</p> <p>⑪起業に係る指導については、毎年3学年を対象に創業についての講話を実施している。就職意識を高めるとともに、将来設計の選択肢のひとつとして起業についての知識を深めている。内容については、起業にはリスクや実力も必要であることも伝えていく必要がある。</p> <p>⑫専門学校の社会的立場としては、基礎学力以外にも熱意や意欲を持った学生が職業能力を身につけることにある。よって、高等学校卒業者から社会人経験者、再進学者など様々な学生が在籍する。就職活動に必要な指導は教務部で実施するガイダンス、週間で実施するキャリアデザインの中で行っている。また、ハローワークや外部の協力を得て、就職活動に関する様々な講話を実施している。教務スタッフで賄いきれない指導に関しては、今後も外部との連携を図って協力を仰ぎ、一定の水準以上の対応ができるよう学生を引き上げていきたい。</p>
<p>◆意見項目 評価基準5 学生支援</p> <p>⑬評価表より委員意見(近藤委員) 新型コロナウイルス感染拡大(収入減)による修学機会を奪わないよう、各種情報提供、相談体制の強化など、ソフト面も含め学生を支援してほしい。</p> <p>⑭評価表より委員意見(岡田委員) 卒業生の転職サポート、情報共有があれば企業からの求人相談が出てくるのではないか。 評価表より委員意見(岡田委員) 卒業生が数ヶ月で辞めてしまうと学校のイメージに関わるので、卒業生へのサポートも手厚くしてほしい。</p>	<p>◆継続的に対応 対象:学校運営全学科全学年 授業:</p> <p>⑬日本学生支援機構の運営する奨学金制度については、コロナウィルス感染症による影響を考慮して、新たな給付金制度の募集、緊急・応急採用の特別枠の設立などさまざまな対応がなされている。それらの情報提供に関しては、学生専用LINE@を利用し速やかに連絡を行っている。個別相談についても各クラス担任が実施し、家計の変化に対応する体制をとっている。</p> <p>⑭就職した卒業生の離職については、学校との信頼関係はもちろん、卒業生自身にとってもマイナスが大きい。就職活動においては、企業と職業の理解を行い進路の選択をすることが必要である。また、学生自身が最適な選択をできるように就職指導にも留意することが必要である。企業選択の時点で適性を加味し幹旋するが教務スタッフにも求められる。内定をいただいた企業へは、インターンシップを行うなど企業と学生が互いを理解する機会を作ること有効か考える。卒業後のサポートについては、個別の相談に柔軟に応じており、中途採用の情報についてもホームページやSNSを利用し情報公開を行っている。</p>
<p>◆意見項目 評価基準6 教育環境</p> <p>⑮評価表より委員意見(近藤委員) 感染症対策についてこれまで以上に整備、対応すべきだと思う。</p> <p>⑯評価表より委員意見(迫間委員) 建物の老朽化は否めないで、新しい学生確保のためには内部の整備は必須かと思う。</p>	<p>◆継続的に対応 対象:学校 授業:</p> <p>⑮感染症対策は必須である。学校運営の中でクラスターを防ぐ対策はもちろん、日常生活の中でも学生へ高い意識を持たせることが必要である。茨城県の方針に従い学内での感染対策マニュアルを設け、注意喚起を実施している。マスクの常時着用、授業教室の常時換気、各フロアにアルコール消毒を設置し手指の消毒、多くの人が触れる場所へ消毒を行っている。さらに、学生・職員・講師を問わず、感染者が出た場合には関係機関への速やかな報告と対応がとれる準備を整えておく必要がある。また、今後の状況によっては一斉休校、分散登校が発生する場合に備え授業計画を前倒しして実施し8月第1週には前期課程を修了できる準備を行った。さらに、一斉休校や分散登校など今後対策stageが移行した場合にも、動画授業にて授業運営ができる体制を整えている。</p> <p>⑯これまで施設環境の改善については、長期計画で修繕・改善を実施している。空調やトイレの洋式化、イスや机の買い替えなど適宜対応をしている。2020年度の計画としては、L201教室の改修を実施する。学生のフリースペースが不足している現状を解決するため、L201教室をコミュニティスペースに変更する。デザインについては、学生が提案した中から採用し、一部施工も学生自ら行っている。学生目線で考えた空間により学校生活がより良いものになると同時に、学生募集の面でもプラスの効果が見られることを期待している。</p>

<p>◆意見項目 評価基準7 学生の受け入れ募集</p>	<p>◆継続的に対応 対象:学校 授業:</p>
<p>⑰評価表より委員意見(近藤委員) パブリシティに取り上げられる取り組みは極めて有効である。</p> <p>⑱評価表より委員意見(竹越委員) 「建築設計デザイン学科」という名称の方がどういった仕事に就くのイメージしやすく良いと思う。</p> <p>⑲評価表より委員意見(高松委員) コロナウイルスで大変な時なので、オンラインの説明会は分かりやすくしてほしい。 評価表より委員意見(関根委員) コロナ禍での募集方法は色々アイデアを出しながら進めてほしい。(入学希望者の親へのPR活動など) 評価表より委員意見(阿久津委員) コロナ禍でも難しいかと思うが、今こそデザイン学校の強みを生かし、広告やHPから分かりやすくすると良いと思う。</p>	<p>⑰毎年実施している修了制作課題で学生が取り組んでいる地域活性化の提案に対しては、連携企業からの評価はもちろんマスコミをはじめ、高等学校にも評価を得られている。地域と連携した取り組みは対外的なアピールに繋がることはもちろん、学生自身にとっても地元で就職活躍するための実践的な力となっている。継続して取り組んでいきたい。</p> <p>⑱入学希望者へ学科のイメージが端的に伝わることは学生募集の面でも重要である。今回の学科名称の変更により、本校の学習内容がダイレクトに伝えられるのではないかとと思う。また、3学科共にゼミ又は専攻を設けることでさらに学べる内容が明確になっている。</p> <p>⑲コロナ禍において学生募集も大きな影響を受けている。高校で進路説明会が実施できない5、6月の期間にはオンラインを利用して学校説明会を実施した。また、オンデマンド動画を制作し、いつでも学校の情報を得られるようHPで告知している。これらの取り組みは今後も継続して実施し、新たな生活の中での学生募集の方法として確立していきたい。今後はLINEを利用した個別相談を実施する予定である。過去に経験のない社会状況の中で、これまでになかった方法で学生募集が実施されている。これらの変化にしっかりと対応し、入学希望者との接点を作っていかなければならない。</p>
<p>◆意見項目 評価基準9 法令等の遵守</p>	<p>◆継続的に対応 対象:全学科全学年 授業:</p>
<p>⑳評価表より委員意見(高松委員) 著作権の講義は年に一度実施できると振り返りに繋がると思う。 評価表より委員意見(迫間委員) デザインを扱う仕事はする上で著作権についての理解は必ず持っていないといけないので、より深く周知してほしい。 評価表より委員意見(関根委員) 個人情報、著作権については、継続して学生に学ぶ機会を設けてほしい。</p>	<p>⑳他社(他者)の権利侵害のリスクから自分を守ることと自身の創作物の権利を守ることがクリエイターにとって大変重要なことである。そして、プロになる前の段階から著作権の意識を学生に持たせることはデザイン教育においても欠かせないものを考える。法律が関わるので難しい講義だったという印象で終わらないよう自分事として捉えらるような内容を目指したい。学習方法については、3年間の在学期間の中で特別講座を設けて実施している。履修方法については、学生の適性なども含め検討していきたい。</p>
<p>◆意見項目 評価基準10 社会貢献・地域貢献</p>	<p>◆継続的に対応 対象:学校 授業:</p>
<p>㉑評価表より委員意見(近藤委員) 様々な業種・業態との連携機会を創出することで地域貢献に結び付けてほしい。当会としても、連携先の提案・紹介等行いたいと思う。 評価表より委員意見(竹越委員) 様々な地域活動をしており、学校の中では得られない学びが多くあると思う。 評価表より委員意見(高松委員) 地域貢献度は高い。 評価表より委員意見(迫間委員) 社会貢献、地域貢献が見えることで学生のモチベーションが上がると思う。素晴らしい取り組み成果。 評価表より委員意見(関根委員) 授業が地域貢献に繋がっている。学生にも授業を通して自分が知らない間に社会貢献・地域貢献をしているということ話をあげ、自信を持たせてほしい。 評価表より委員意見(阿久津委員) プロジェクトの依頼が多くなっているようでとても地域貢献になっている。</p>	<p>㉑毎年多くの地域連携課題や地域イベントへの話をいただいている。近年はこれまで培ってきた実績が広く周知され様々な案件の問い合わせが入ってくる。しかし、企業・団体との連携を図る際には受動的に依頼を受けるのではなく、公共性や社会貢献度・学修効果を考え進めていかなくてはならない。連携を進めるに当たってはレクチャーや資料の提供、中間審査でのアドバイスなど教育活動への理解とデザインの保護や著作権の有り方について協定書を結んで進めている。外部との連携のノウハウもいくつもの事例を通して蓄積できている。スムーズに連携を図れている。地域のニーズを学習プログラムに落とし込むことで、地域で活躍するために必要な実践的な力を身に付ける大変有意義な内容となっている。そして、それらの取り組みが本校の独自性や付加価値を高めていると感じている。引き続き地域連携を推進していきたい。</p>

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
近藤 哲生	茨城県中小企業団体中央会	令和2年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界団体
岡田 寛和	株式会社光和印刷	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
竹越 萌野	アセビデザイン	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
安藤 理	水戸ステーション開発株式会社	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
住谷 強生	株式会社ジェイディーアールスマヤ	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
高松 啓士	有限会社メイクス	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生
迫間 美香	茨城インテリアコーディネーター協会	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	業界団体
関根 貴雄	株式会社関根工務店	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
阿久津 裕司	株式会社根本建築設計事務所	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())・令和3年7月31日
URL: www.bunka-gakuen.ac.jp

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 本校は、基礎的情報をはじめ、本校の特色、教育活動の状況やその成果・実績、また学校運営の状況に関する情報を積極的に企業等関係者に提供することを通し、本校教育の意義・役割等に対する理解を深め、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、業界のニーズを踏まえた人材育成に向けての教育内容のさらなる充実に取り組むことを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	I 学校の教育・人材の育成の目標及び教育指導計画、経営方針、特色 II 校長名、所在地、連絡先等 III 学校沿革、歴史 IV その他諸活動に関する計画
(2)各学科等の教育	I 広告プロモーションデザイン学科 II ファッション&ブライダルビューティ学科・ファッションコーディネート学科 III インテリア&家具クラフト学科
(3)教職員	I 教職員数 II 教職員の組織 III 教員の専門性 兼任講師一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	I キャリア教育・就職支援への取組状況 II 実践的職業教育 実習・実技等の取組状況
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況と課外活動 II 教育環境について
(6)学生の生活支援	I 学生支援の取組状況
(7)学生納付金・修学支援	I 学生納付金 II 奨学金について
(8)学校の財務	I 監査報告書 II 貸借対照表 III 収支計画書
(9)学校評価	I 自己評価・学校関係者評価の結果 II 評価結果を踏まえた改善方策
(10)国際連携の状況	I 国際交流 II 留学生の受入れ（出願資格・出願書類）
(11)その他	I 学則 II リリールアカデミーグループに関する情報

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
 ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
 URL:www.bunka-gakuen.ac.jp

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリア&家具クラフト学科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			リビングスタイリスト	インテリアコーディネーター資格試験の商品と販売の分野の範囲となり、リビングスタイリスト資格試験の販売知識を学ぶ。	1通	60	4	○			○			○	
○			スペースデザインⅠ	敷地の選定、構造寸法、住宅の形式と計画、住宅一般の間取りと平面計画。	1前	30	2	○			○			○	
○			測量実習	測量の解説と敷地の平面測量及び高低の測量実習。	1前	45	1			○	○			○	
○			プレゼンテーションⅠ	コラージュ、デッサンなど基礎的な観察力・発想力を高め、作品のまとめ方とプレゼンテーション力をつける。	1前	60	2	○			○			○	
○			インテリア造形Ⅰ	平面図の立体スケッチ法（展開・立面・パース）を学び建築模型制作の基礎実習。	1前	60	2	○			○			○	
○			インテリアカラー	カラーの基礎知識を学ぶと共に、色彩・明度・彩度など色の特性、イメージのカラープランニング力を修得する。	1前	30	2	○			○			○	
○			インテリアデザイン実習	建築と生活に関わる寸法を把握する。そして、建築空間を考える技法の習得。各種建築物の研究・リサーチ（目的・用途・デザイン・構造等）を建築史より学ぶ。	1前	60	2	○			○			○	
○			建築インテリア研究	空間をデザインする上で必要な建築/インテリア環境設定を理解するために、歴史的背景や様々な事例を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			インテリアデザイン製図Ⅰ	図面の機能や読み方から線一本を引く練習から始まり、平面図・展開図・立面図等の作図。	1前	60	2	○			○			○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリア&家具クラフト学科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			インテリアCAD I	ベクターワークスによる作図手順の解説と作図演習。3DCADにて立体表現を行う前の図面知識を修得する。	1後	60	2	○	△	○	○	○	○	○	
○			インテリア設備	換気・空調・給排水・電気・照明等・各種建築設備の機能。時代のニーズに応えられるインテリア住宅機器の商品知識を学ぶ。	1後	30	2	○		○				○	
○			インテリアデザイン実習	年間の総合進級課題。住空間のデザインを基本計画・設計製図、模型、パース、インテリア表現。	1後	60	2	○	△	○	○			○	
○			プレゼンテーション I	実際に空間のデザインを行いながら、相手に考えを表現として伝える方法を学ぶ。	1後	60	2	○	△	○	○			○	
○			カラーコーディネート対策講座	カラーコーディネーター3級合格に向けた特別講義。	1後	30	2	○		○				○	
○			DIY	限られた空間の中で、生活を豊かにする工夫を創作により考えられる思考を学ぶ。	1後	60	2	○		○				○	
○			雑貨デザイン	生活するうえで必要な生活雑貨を制作する事により、生活雑貨の使われ方から住空間や家具の寸法を導き出す。	1後	60	2	○		○				○	
○			インテリア造形 I	イメージした空間に合わせてインテリア模型を作れるようになり、表現力の高い制作技術を身に付ける。	1後	60	2	○		○				○	
○			インテリアデザイン製図 I	居住施設の配置、平面、断面、展開、かなばかり、各部詳細、仕上げ表等の作図。	1後	60	2	○		○				○	
合計					科目		単位時間(単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリア&家具クラフト学科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			はじめよう建築法規	二級建築士受験にも使用する建築基準法令集の対策準備。	1前			○			○	○			
○			キャリアデザイン I	自己のアptenティティ-を再確認し、将来の専門分野での適性を考える。	1通	60	4	○			○	○			
○															
○															
○															
○															
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリア&家具クラフト学科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			DIY	実際に存在する空間で、求められるライフスタイルを送れる空間をデザインして制作する。	2前	60	2	○			○				
○			プレゼンテーションⅡ	Adobeのイラストレーターとフォトショップを使い、ショップディスプレイ&インテリアを表現する為のデザインソフトの表現力を身に付ける	2前	60	2	○			○				
○			インテリアCADⅡ	ベクターワークスによるインテリアデザインの3D表現。外観・内観パースを作成する事を学ぶ。	2前	60	2	○			○				
○			インテリア法規Ⅰ	建築物を設計する上で必要とされる建築基準法及び関係法令の知識。	2前	30	2	○			○				
○			インテリアデザイン製図Ⅱ	R C造/S造の配置、平面、断面、展開、かなばかり、各部詳細、仕上げ表等の作図。	2前	30	1	○			○				
○			建築インテリア構造Ⅰ	各種材料の力学的な強度実験、木材、石材、セメント、コンクリート、金属、塗料等の性質と用途。	2前	30	2	○			○				
○			雑貨デザイン	空間に必要な雑貨を考え制作することにより、生活のバリエーションを増やせる雑貨を提案する力を身に付ける。	2前	60	2	○			○				
○			ICまとめ	インテリアコーディネーター資格一次試験に向けた内容で、総合的に試験範囲内をまとめる授業。	2前	60	4	○			○				
○			ショップデザイン論	歴史的ショップデザインの研究。建築空間の表現要素、目的と効果、つくる要素を学び、商業施設の計画方法を学ぶ。	2前	60	4	○			○				
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリア&家具クラフト学科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ガーデンデザイン	近年のライフスタイルに合わせたガーデンデザインを実習を通して学び、建築との関連性を身に付ける。	2後	60	2	○			○			○	
○			インテリア造形Ⅱ	設計図に基づく建築模型の製作技法と、プレゼンテーションの表現方法。インテリアの制作技術も学び空間にリアル感を与える。	2後	60	2	○	△		○	○		○	○
○			インテリアCADⅡ	ベクターワークスにより、実際にショップデザインを行う際の3Dパースを作成する。	2後	60	2	○	△		○	○		○	○
○			プレゼンテーションⅡ	Adobeのイラストレーター・フォトショップを使い、実際にショップデザインを表現する。3Dパースに付加価値をもたらす技術を身に付ける。	2後	60	2	○	△		○	○		○	○
○			インテリアデザイン製図Ⅱ	二級建築士の受験もできる製図力を身に付けられる実践的な製図実習。	2後	30	1	○			○			○	
○			家具デザイン	生活様式と家具の歴史、各種家具の構造把握からデザイン設計図。住空間における家具の存在と配置の仕方を学ぶ。	2後	60	2	○			○			○	
○			ICまとめ	インテリアコーディネーター資格二次試験に向けた内容で、プレゼンテーション・論文の対策授業を行う。	2後	60	4	○			○			○	
○			ショップデザイン実習	商業施設を中心とした修了制作課題(ショップデザイン提案)コンセプト設定～各種図面、インテリア表現、プレゼンテーション技法。	2後	60	2	○	△		○	○		○	○
○			キャリアデザインⅡ	社会の中でのアイデンティティを再発見し、将来の専門分野の進路への手がかりを得る。	2通	60	4	○			○			○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリア&家具クラフト学科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ガーデンデザイン	クライアントの要望に合わせて、ガーデンデザインの提案とそれに沿った植栽や草花を選び、付随する工作も含め制作する。	3前	60	2	○			○			○	
○			プレゼンテーションⅢ	見る人が好感を覚えるような空間を提案できると共に技術的な表現力を身に付ける。	3通	120	4	○	△		○	○		○	○
○			インテリアCADⅢ	提案する空間を、よりリアルな3Dパースにて環境も含めて表現する力を身に付ける。	3通	120	4	○	△		○	○		○	○
○			福祉住環境コーディネーター対策講座	福祉住環境コーディネーター受験に合わせ、住宅設計上必要な、介護・医療・福祉の知識・バリアフリー住宅の計画。提案・リフォームについて学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
○			インテリア法規Ⅱ	二級建築士受験に合わせ、受験範囲を網羅する授業。	3前	30	2	○			○			○	
○			構造デザインⅠ	基本的な構造や計算の仕方などを解法。力のつりあい、反力、応力について理解を深める。	3前	30	2	○			○			○	
○			コミュニケーションデザイン	現存する空間の中で、問題点を見つけ出し、デザインの力で解決する方法を学ぶ。	3前	60	4	○			○			○	
○			家具デザイン	家具があるからこそ生まれる空間の提案ができるように、イメージに合わせた家具を制作する。	3前	60	2	○			○			○	
○			ICまとめ	インテリアコーディネーター資格試験に向けた内容で、総合的に試験範囲内をまとめる授業。	3前	60	4	○			○			○	
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で2つ以上履修する事	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリア&家具クラフト学科) 2020年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			スケッチデッサン	ライフスタイルがイメージできる空間を手描きで表現する技術を身に付ける。	3前	60	2	○			○			○	
○			建築インテリア材料	各種材料の力学的な強度、木材、石材、セメント、コンクリート、金属、塗料等の性質と用途。	3前	30	2	○			○			○	
○			インテリアデザイン施工	建築施工の契約・計画・管理についてと、施工機器・器具及び積算・見積りについて学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
○			建築インテリア構造Ⅱ	一般構造となる、荷重・外力、構造計画、地盤・基礎、木造、鉄筋コンクリート造、壁式構造、鉄骨造、その他の構造について学ぶ。	3後	30	2	○			○			○	
○			インテリア造形Ⅲ	住む人、使う人の事を考え、細部に至るまで造形的な表現にこだわりを持って作るための技術を身に付ける。	3後	60	2	○	△		○	○		○	○
○			構造デザインⅡ	反力、応力を理解した上で、トラスの断面の性質、座屈、応力度について理解する。	3後	30	2	○			○			○	
○			修了制作Ⅲ	今後の社会において、建築/インテリアの分野にて問題解決してデザインを使った提案力を身に付ける。	3後	60	2	○	△		○	○		○	○
○			office実践	Microsoft office Excel、Word、PowerPointは必須スキルである。基礎から学び、社会人として必要な技術を身に付ける。	3後	30	2	○			○			○	
○			ICまとめ	インテリアコーディネーター資格二次試験に向けた内容で、プレゼンテーション・論文の対策授業を行う。	3後	60	4	○			○			○	
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で2つ以上履修する事	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(産業デザイン専門課程インテリア&家具クラフト学科) 2020年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
	○		造形写真	空間や生活を支える雑貨などを含め、提案する際に求められる物の良さを伝える写真撮影技術を身に付ける。	3後	60	2	○			○			○		
○			建築インテリア材料実験	コンクリートの性質を理解し、実際にコンクリートを作り、破壊する実験をする。鉄筋については引っ張り実験を行う。	3後	45	1			○		○			○	
○			キャリアデザインⅢ	学び身に付けたことを将来どう活かしていくかを確認し行動していく。	3通	60	4	○			○		○			
合計					59科目		2940単位時間(128単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
選択必修授業は学年で2つ以上履修する事	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。